

安全データシート

株式会社チップトップジャパン

改定：2018年5月1日

チップトップハンドクリーナースーパー



1. 化学品及び会社情報

製品名：チップトップハンドクリーナースーパー

製品番号：593 0452 0000、593 0453 0000、593 0436 0002、593 0436 0004、593 0481 0000

用途：手洗い洗剤

製造販売元：株式会社チップトップジャパン

住所：〒452-0821

愛知県名古屋市西区上小田井2丁目338

電話番号：052-502-3500

FAX番号：052-502-3620

※本製品はREMA TIP TOP AGの指導・管理のもと、製造されている。

Responsible for the product: REMA TIP TOP AG

Gruber Strasse 63, D-85586 Poing, Germany. Tel +49 (0) 8121 / 707-0

2. 危険有害性の要約

2.1. 物質または混合物の分類

危険有害性区分：急性毒性(経口) 区分4

吸引性呼吸器有害性 区分1

皮膚腐食性・刺激性 区分2 / 皮膚感作性

2.2. GHS ラベル要素

注意喚起語：警告

絵表示：



危険有害性情報

H302 飲み込むと有害

H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

H315 皮膚刺激

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H319 強い眼刺激

ラベル表示上の追加情報

ドイツの化粧品条例や、ヨーロッパの化粧品条例との共同での法令、EU化粧品指令によると、本製品は表示義務に従う必要のない製品である。

2.3. その他の危険有害性

特に無し。

3. 組成及び成分情報

混合物

化学的特性評価

非危険混合物と下記物質との混合物

危険構成成分

CAS No.	成分名称	有害性区分	危険有害性 情報コード	質量
25115-30-0	ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム	急性毒性(経口) 区分 4 皮膚腐食性・刺激性 区分 2 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 区分 2A 特定標的臓器毒性/単回暴露; 気道刺激性 区分 3 水生環境有害性、急性毒性 区分 1	H302 H315 H319 H335 H400	<2%
9004-82-4	ラウレス硫酸ナトリウム	急性毒性(経口) 区分 4 皮膚腐食性/刺激性 区分 2 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分 2 特定標的臓器毒性/単回暴露; 消火器系 区分 2A 吸引性呼吸器有害性 区分 1 水生環境有害性、急性毒性 区分 2 水生環境有害性 慢性毒性 区分 2	H302 H315 H319 H371 H304 H401 H411	<3%
8028-48-6	オレンジオイル	引火性液体 区分 3 吸引性呼吸器有害性 区分 1 皮膚腐食性/刺激性 区分 2 皮膚感作性 区分 1 水生環境有害性、慢性毒性 区分 2	H226 H304 H315 H317 H411	<7%
26077-37-2	ポリエチレングリコール モノエーテル オレイン酸モノエタノールアミド	皮膚腐食性/刺激性 区分 1	H314	<6%
68475-47-8	ダイズ油脂肪酸アミドDEA	皮膚腐蝕性/刺激性 区分 2 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分 1	H315 H318	<2%

※危険有害性情報と注意書きに関してはセクション 16 を参照。

4. 応急措置

4.1. 応急措置について

一般情報

本製品を使用する事によって気分がすぐれないようであれば、医師の診断を受ける。

求められる予防措置は特に無い。

吸入した場合

特別な処置は必要ない。

皮膚に接触した場合

大量の水で洗い流す。

もし皮膚への刺激が続くようであれば、医師に相談する事。

眼に入った場合

直ちに大量の水で顔の内側も含め少なくとも 15 分ほどかけて洗い流す。

眼の専門医師の診断を受ける。

誤飲した場合

患者自ら吐かせない。

気管内に泡が発生する危険があり、二次的な容態悪化の恐れがある為、専門医師の判断を受ける事。

※嘔吐した場合、内容物の成分が泡立つことにより呼吸困難の危険性がある。

口をよく濯ぎ、グラス数杯の水を飲ませる。

患者が誤飲した内容物を吐かせるかどうかの判断は、専門医師の判断に委ねる事。

4.2. 急性もしくは後発性に出る重大な症状等

眼に対する重篤な損傷の危険

皮膚との接触により刺激を起こす可能性がある。

気泡の吸引に注意。

4.3. 緊急の治療や特別な措置が必要とされる指示

症状に応じた医療措置を行う事。

5. 火災時の措置

5.1. 消火剤

適切な消火剤

本製品自体は不燃性。消火活動は周囲の環境・状況による。

安全上の理由による不適切な消火剤

ウォータージェット

5.2. 物質または混合物から生じる特別な危険有害性

火災によって、一酸化炭素、二酸化炭素、硫黄酸化物、窒素酸化物が発生する可能性がある。

5.3 消防士への助言

消火活動時は火災用保護服を着用し、自給式呼吸器具を装着する事。

その他注意事項

危険な状態の場合にはウォータースプレージェットで容器を冷やす。

火災の残留物や消火活動による汚染された水は、地方条例に従い処分する事。

6. 漏出時の措置

6.1. 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

滑る危険性があるので注意。

眼や皮膚、粘膜との接触を避ける。

6.2. 環境に対する注意事項

下水管、地表水、地下水、土壤に流してはいけない。

6.3. 洗浄に関する方法と材料

不活性で吸収できるもの(砂、シリカジェル、酸性結合剤、一般的な結合剤)で吸収する事。

処分用に適した容器に入れる。

6.4. 他のセクションを参照

セクション 7, 8 を参照。

処分に関する情報はセクション 13 を参照。

7. 取り扱い及び保管上の注意

7.1. 安全に取扱う為の注意事項

安全な取扱いの為の助言

本製品の内容物を眼に触れないようにする。

本製品を飲食物のそばで保管しない。

火災や爆発防止を防ぐ為の助言

火災に対しての特別な予防措置は特に無し。

7.2. あらゆる配合基層を含む安全な保管条件

保管場所や保管容器の必要条件

容器をしっかりと閉め、十分に換気された冷暗場所に保管する。

適正な保管の助言

特に無し。

その他の保管条件

飲食物、動物用飼料と一緒に保管しない。

本製品の使用用途

手洗い洗剤

8. 暴露防止及び保護措置

8.1. 制御パラメーター

8.2. 暴露の管理

保護と衛生基準

本製品の使用中に飲食をしない事。

衣服についた場合はすぐに衣服を脱ぐ事。

眼に触れないようにする事。

呼吸器の保護

呼吸保護用の器具着用は特に必要ない。

眼の保護

側面も覆われた適切な保護眼鏡を使用する。

きれいな水で眼を洗い流す。

皮膚の保護

長袖を着用する事。

9. 物理的及び化学的性質

9.1. 基本的な物理学及び化学的特性に関する情報

物理的状態 : ペースト状
色 : 薄黄色
臭い : フルーティー
pH 値 : 5.5 - 6.5

物理的状態の変化

融点 : 約 100°C
引火点 : データなし
爆発下限界 : データなし
爆発上限界 :
着火温度 : データなし
蒸気圧(20°C) : 24hPa
比重(20°C) : 0.9g/cm³
水溶性(20°C) : 不溶解性

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

指示通りに保管すれば、分解・変質はしない。

10.2 化学的安定性

通常の状況下においては安定している。

10.3 危険な反応の可能性

特に無し。

10.4 避けるべき条件

熱による製品の変質を避ける為に、加熱してはいけない。

10.5 配合禁忌物質

特に無し。

10.6 危険有害な分解生成物

一酸化炭素、二酸化炭素、硫酸化物、窒素酸化物

11. 有害性情報

11.1 毒物作用に関する情報

急性毒性

毒物データなし。

刺激性と腐食性

眼の刺激 : 刺激性 - 重篤な眼の損傷

皮膚の刺激 : 皮膚病学テストにおいて皮膚への刺激性の証明はされていない。

感作

利用可能なデータに基づいて、分類されない。

繰り返しの使用や長期被曝による重大な影響

STOT(特定標的臓器毒性) - 単一被ばく : 分類されない

STOT(特定標的臓器毒性) - 反復暴露 : 分類されない

吸引性の危険 : 分類されない

生殖への発癌性/突然変異誘発性/毒性の影響

発癌性：分類されない。

突然変異誘発性：分類されない。

催奇形性：分類されない。

実験データ上での人体への影響

適切に一般的な取り扱いをするのであれば、健康への害はない。

発泡体の吸引に注意。

12. 環境影響情報

12.1. 毒性

生態学上のデータは無い。

12.2. 残留性と分解性

データ無し。

12.3. 生体蓄積性

データ無し。

12.4. 土壌への移動性

データ無し。

12.5. PBT 及び vPvB 評価の結果

データ無し。

12.6. その他の有害な影響

有害な水質汚染物質

その他の情報

製品を水域環境へ流してはいけない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄処理方法

廃棄処分のアドバイス

地方条例に従い焼却可能。

再生利用が可能な場所であれば、廃棄より好ましい。

製品が入っていた容器

本製品が入っていた容器は、その地方の条例に従いリサイクル、回収、廃棄処理等を行う事。

本製品が入っていた容器はできるだけ早く空にし、洗浄処理後に再利用可能である。

容器が洗浄できない場合は、本製品と同様に処分すること。

14. 輸送上の注意

輸送上、危険品原料として定義されている原料は含まれない。

15. 適用法令

15.1. 安全・健康・環境面に対する規制/含まれている物質または混合物に対する特定の法令

国内規制

化管法：該当せず

安衛法：該当せず

毒劇法：該当せず

国際規定情報

従業員の使用制限 : 若年層、妊娠中または授乳中の場合は、使用しない事。

水質汚染クラス(D) : 2

15.2. 化学物質安全評価

本製品の内容物は化学物質安全評価を実施されていない。

16. その他情報

危険有害性情報コード

H226	引火性の液体および蒸気
H302	飲み込むと有害
H304	飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H314	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
H315	皮膚刺激
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H318	重篤な眼の損傷
H319	強い眼刺激
H335	呼吸器への刺激のおそれ
H351	発がんのおそれの疑い
H371	臓器の障害のおそれ
H372	長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害
H400	水生生物に強い毒性
H401	水生生物に毒性
H411	長期的影響により水生生物に毒性

注意書きコード

P201	使用前に取扱い説明書を手入手すること。
P202	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
P210	熱/火花/裸火/高温のもののような着火源 から遠ざけること。—禁煙。
P223	容器を密閉しておくこと。
P240	容器を接地すること/アースをとること。 - 静電気に敏感な物質を積みなおす場合 - 製品が危険有害な気体を発生させるほど揮発性である場合
P241	防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/...機器を使用すること。
P242	火花を発生させない工具を使用すること。
P243	静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P260	粉じんまたはミストを吸入しないこと。
P261	粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P264	取扱い後、手をよく洗うこと。
P270	本製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
P271	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273	環境への放出を避けること。
P280	保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P281	指定された個人用保護具を使用すること。

P310	直ちに医師に連絡すること。
P312	気分が悪い時は医師に連絡すること。
P314	気分が悪い時は医師の診断/手当てを受けること。
P321	特別な処置が必要である。
P330	口をすすぐこと。
P331	吐かせなにごと。
P362	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗淨すること。
P363	汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。
P391	漏出物を回収すること。
P405	施錠して保管すること。
P501	内容物/容器を各自自治体の規則に従って廃棄すること。
P301+P310	飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。
P301+P312	飲み込んだ場合:気分が悪いときは医師に連絡すること。
P301+P330+P331	飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
P302+P352	皮膚についた場合:多量の水と石鹼で洗うこと。
P303+P361+P353	皮膚(または髪)にかかった場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
P304+P340	吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338	眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗淨を続けること。
P308+P313	暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。
P309+P311	暴露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。
P332+P313	皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
P333+P313	皮膚刺激または発疹が生じる場合は、医師の診断/手当てを受けること。
P337+P313	眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
P403+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

詳細情報

4~3並びに10~12の項目のデータの一部は、使用目的は使用方法についての情報だけでなく、事故や不測の事態の場合の重要な事について記載していますが、危険性や項目に該当しない使用法による瑕疵は、その責を負いかねます。この情報は本製品を安全に使用する必要条件について述べており、弊社の知りえる範囲を基としています。納入仕様書は、製品の使用説明書に記載されています。このデータは、法的規制によって、製品の性質を明確に保証するものではありません。

(n.a. = 該当なし; n.d. = 未検)